



## 里山に育む生きものたち

### 10 クサボケ

(バラ目 バラ科)

学名 *Chaenomeles japonica* Lindl

写真・文 / 安 昌美

里山のコナラやクヌギの雑木林が管理されなくなつて久しくなります。一部の林は今でも、落ち葉の採取がされていますが、燃料の薪や炭に焼かれることは殆どないと思われます。四季の変化がはつきりし、季節の花や昆虫がみられる楽しい所です。アズマネザサなどが密生しますと、地表面に光が届かず、他の植物の生活する場所がなくなります。最近では、林の下刈をして、キンランなどがみられるようになったなどの報告が各地からあります。町内でも、春先にクサボケのみられる林は大切にしたいです。

#### ▼クサボケとは

クサボケは草木瓜と書き、中国産のボケ（木瓜）に比べて小さいからとさ

れています。木瓜は果実の付いている時期の状態が、木に瓜がなっているように見えることからとされています。言葉の響きからの、「ぼけ」はあまりよい感じがしません。

日本固有のバラ科の落葉小低木です。本州、四国、九州の丘陵地の明るい雑木林の林下や草地に生えます。時に谷津田の水田脇の斜面で花を見る時もあります。花は春に咲き、その後小さな瓜状の果実を付け、秋には黄色に熟します。この実をシドミ（酸実）と呼び、香りを嗅いだ思い出があります。最近の子どもたちはどうでしょうか。

茨城町では野曾、宮ヶ崎、近藤、大戸、常井、長岡、南川又の記録があります。まだ町内には各地に残っています

でしょう。

#### ▼クサボケの仲間

ボケ属は東アジアの中国、朝鮮半島、日本に4種が産し、日本ではクサボケのみが自生し、庭などに植栽されているボケは平安時代に中国から日本に入ってきたとされます。カリンも中国東部の原産とされていますが、いつ日本へ入ったかは不明です。他に中国にマボケと呼ばれる種類があり、日本にも入っています。日本特産のクサボケには白花品や八重咲きも記録されています。

#### ▼クサボケの生活

クサボケは地表近くで枝を分かち、あまり背が高くなりません。逆に刈り込みに対する対応はできています。背は低いのに、枝が太く、がっちりしていることがあります。春に花を咲かせますが、一つの株に2種類の花が咲き、両性花（めしべもある）と雄性花（めしべなし）が混じって付いています。実が着くのは両性花です。

実は和木瓜として生薬に利用されるそうです。一般的には実を適当な厚さに切り、果実酒とされます。果実酒は食欲増進、冷え性、貧血症、疲労回復に効果があるとされますが、私は飲んだことがありません。口に入るものはよく調べてからがよいでしょう。

編集・発行 / 茨城町総務企画部まちづくり推進課

〒311-3192 茨城県東茨城郡茨城町小堤 1080 TEL029-292-1111

ホームページアドレス <http://www.town.ibaraki.lg.jp/> メールアドレス [ibarakit@town.ibaraki.ibaraki.jp](mailto:ibarakit@town.ibaraki.ibaraki.jp)

DATA

茨城町の人口と世帯数 ※カッコ内は前月比です。(住民基本台帳 平成25年1月1日現在)

◆総人口 34,451 人 (-60) 男 17,202 人 (-27) 女 17,249 人 (-33) ◆世帯 12,427 戸 (-14)

DATA

再生紙を使用しています



環境に優しい大豆インクを使用しています